

レーヨン織物の樹脂加工による物理的
性状変化について

椋山女学園大 名倉 光雄

○田中 宏

1. 織物に樹脂加工された場合、Wash and Wear 性が改善されるので、樹脂加工されたレーヨン織物のRH 65%、100%における吸湿率・最小吸水率・比重を測定し、これらの試料を繰返し洗たくした場合の収縮率を求めて、その Wash and Wear 性に対する樹脂加工の効果を検討した。

2. 試料には同一レーヨン織物で樹脂量の異なるメチロール尿素樹脂加工織物5種とその未加工布を用いた。吹湿率はRH 65%、100%において調湿した場合、最小吸水率は液温20°Cで30分浸水後、遠心分離機にて脱水した場合の各重量を測定して求めた。比重は比重傾斜管を用いて測定した。収縮率は織物の収縮率試験法の低温ワッシャー法に準じて8回の洗たくを行ない、その変化を求めた。

3. 吸湿率はRH 65%では3.1%、100%では7.5%、最小吸水率では17.7%加工布の方が低い数値を示した。樹脂量の増大と共に吸湿率は見掛上減少するが、繊維実質当たり換算すると差は少ない。しかし最小吸水率では樹脂量の増大と共に吸水率の減少が認められた。比重は加工布の方が未加工布よりも小であった。収縮率はタテ方向において未加工布の方が著しく大きい、ヨコ方向においては著しい差がみられなかった。